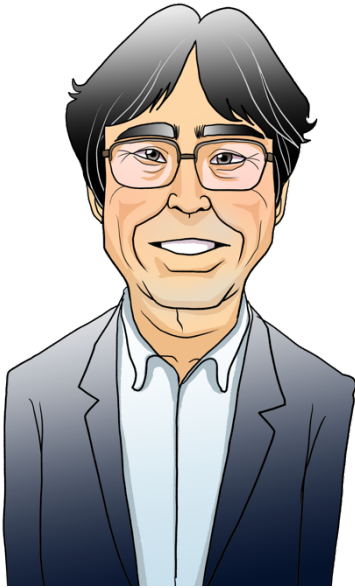




○「生涯協働し、学び合い続ける」教員の養成（藤中 隆久 先生）



令和2年度より、従来のコースに加えて、新たに教科教育コース、特別支援教育コースが設置されました。それに伴って、15人の院生定員が30人に倍増されました。院生は、熊本市教委派遣の現職教員3名、熊本県教委現職派遣教員3名の6名と、学部から上がってきた院生や私立の現職教員、臨採経験者などの22名、計28名で構成されています。多様な背景を持つ院生が、共通科目においては、机を並べて一緒に学んでいるのが、熊本大学教職大学院の特徴とって良いでしょう。現職とストレートマスターを別々に学ばせたり、3つのコースの院生を別々に学ばせたり配慮をしないことこそが、熊本大学教職大学院の配慮と言っても良いでしょう。なぜ、そのような配慮をしないのかと言えば、その方が、学んでいてずっと楽しいからです。様々な背景を持つ者が、様々な意見を述べ合い、吸収し合うことで、学びは深まっていきます。学びの深まりを実感することが、学びの楽しさです。学びの楽しさを実感させることが、教職大学院の使命です。そこが実感できる教職大学院にしたい、これこそが、我々の熱き思いなのです。

○院生の声

・現職教員学生 龍野 成敏 さん



来年度から中学校でも新しい学習指導要領が実施されます。「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラム・マネジメント」など、認識はしていたものの、実際に教育がどのように変わっていくのか、教師はどのように実践していく必要があるのか、現場の慌ただしさの中ではきちんと理解する余裕が持てずにいました。しかし教職大学院では、ストレートマスターや他の現職教員学生との協働的な学習を体験する中で、これからの教育に必要な理論をじっくりと学ぶことができます。そして、その理論をもとに今までの実践を振り返り、今後の実践に生かすヒントをたくさん得ることができています。「理論と実践の往還」が、教職大学院の特徴であり、魅力であると感じています。

・ストレートマスター 西川 広貴 さん



教職大学院に入学して、4ヶ月が経過しました。私は、教採には合格していましたが、教員として上手くやる自信がなく、大学院への進学を選択しました。入学当初、明確な目標がありませんでしたが、今では、ICTを活用した画期的な学級経営ができる教員になるという少し具体的な目標を見つけることができました。それは、現職の学生の方々とグループ活動をすることや、他の色々な大学から来ている学生と教育について日々議論することができたからです。先輩に大学院は授業が楽しいと聞いていましたが、今実感しています。これを読んでいる皆さん、ぜひ大学院に来て一緒に学びませんか。僕は、進学を選んで本当に良かったと感じています。